

**OLYMPUS**

Your Vision, Our Future

# オリンパスグループにおける OSSライセンス コンプライアンスの実際

2015年9月25日

オリンパスソフトウェアテクノロジー株式会社

技術本部ソフトウェア戦略室 小泉 悟

**商号**

**オリンパス株式会社**  
(Olympus Corporation)

東京・本社

**設立**

**1919年**

**連結売上高**

**7,647億円**

**連結従業員数**

**31,540人**

**グループ会社数**

**1399社**

2015年3月期、数字は概数



## 主要3事業

**医療**



**科学**



**映像**



## 商号

**オリンパスソフトウェアテクノロジー株式会社**  
(略称 O-Soft)

## 設立

**2006年**

## 従業員数

**690人**

(2014年3月現在)

笹塚 本社



八王子石川事業場

## 事業内容

**オリンパスの医療事業・科学事業・映像事業における  
製品の組込みソフト、アプリケーションソフトの開発**

1. はじめに
2. 経緯
3. 運用の実際
4. まとめ

# 1. はじめに - 本日本話すること

5/16

皆様、本日はどのような内容を期待してお集まりでしょうか。

- a. ソースコード管理にはsubversionを、バグ管理にはmantisを使っています。

subversionの使い方のコツは、、、

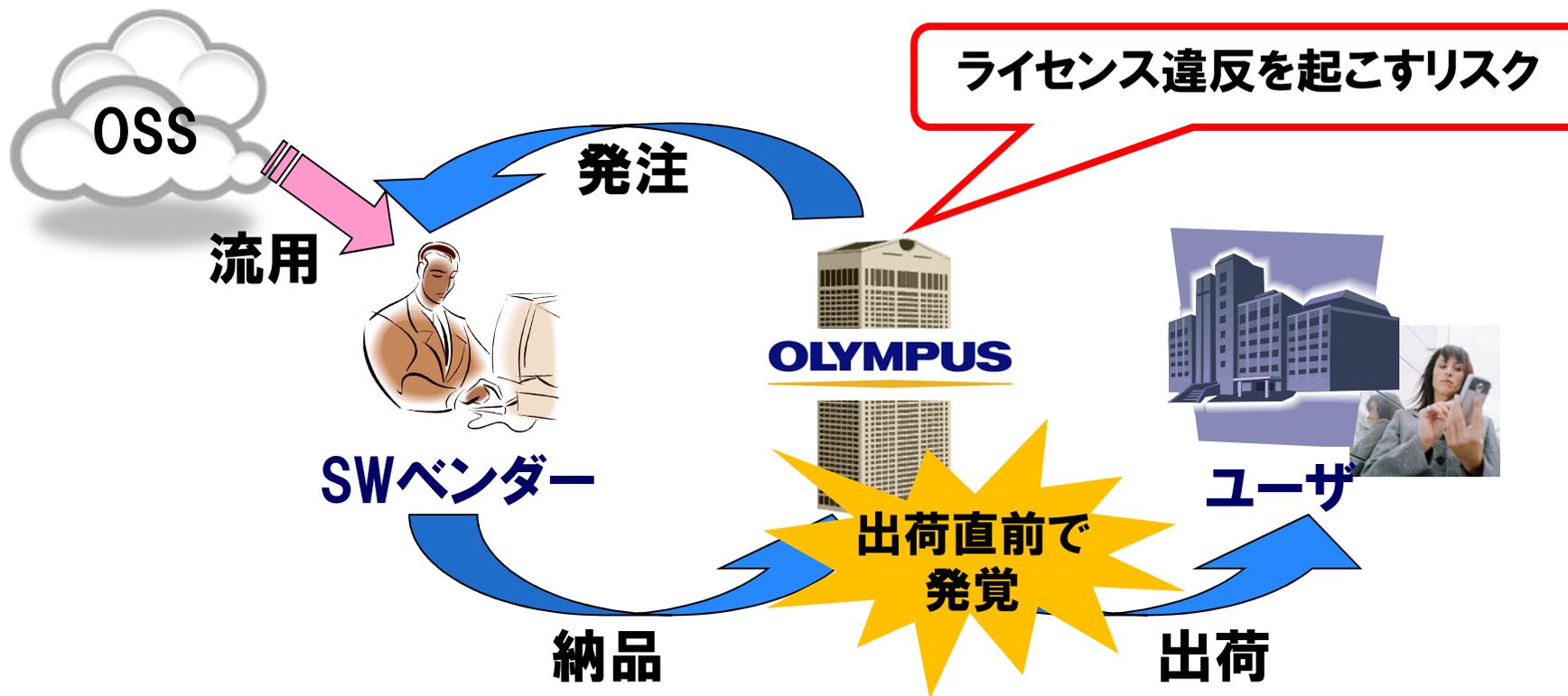


- b. OSSを組み込んだら、OSSを組み込まない製品とはまったく別の開発プロセスになります。

その開発プロセスとは、、、



### グループ内でヒヤリ・ハットが発生！



ベンダーに開発を依頼していたソフトウェアでOSSを利用していたことが判明。出荷直前で発覚し対応を至急実施。

## 2. 経緯 - まず何をしたか？

法務からの問題提起によりOSS検討委員会（研究開発部門、ソフトウェア開発部門他）が発足



OSSチェックツール  
(Protex)導入



全社標準作成

しかし・・・

なかなか展開が難しい

### 小さくスタート

⇒ ソフトウェア開発部門(O-Soft)をパイロット部門として、Protexの運用開始。全社標準をO-Softの開発プロセスに組み込み運用

### 開発者の育成

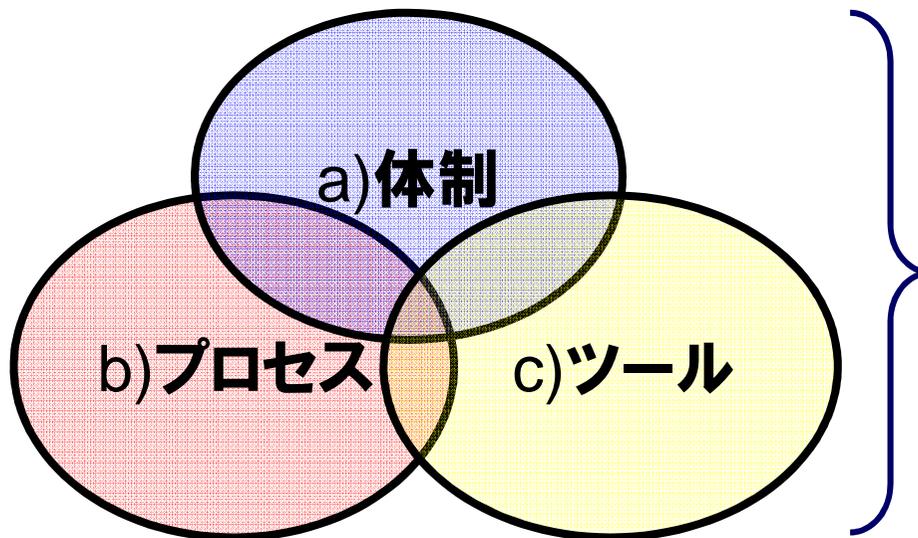
⇒ NEC様のコンサルティングにて、OSSライセンスに対する教育、OSS利用ガイドラインを作成。

## 2. 経緯 - 対策の方針

8/16

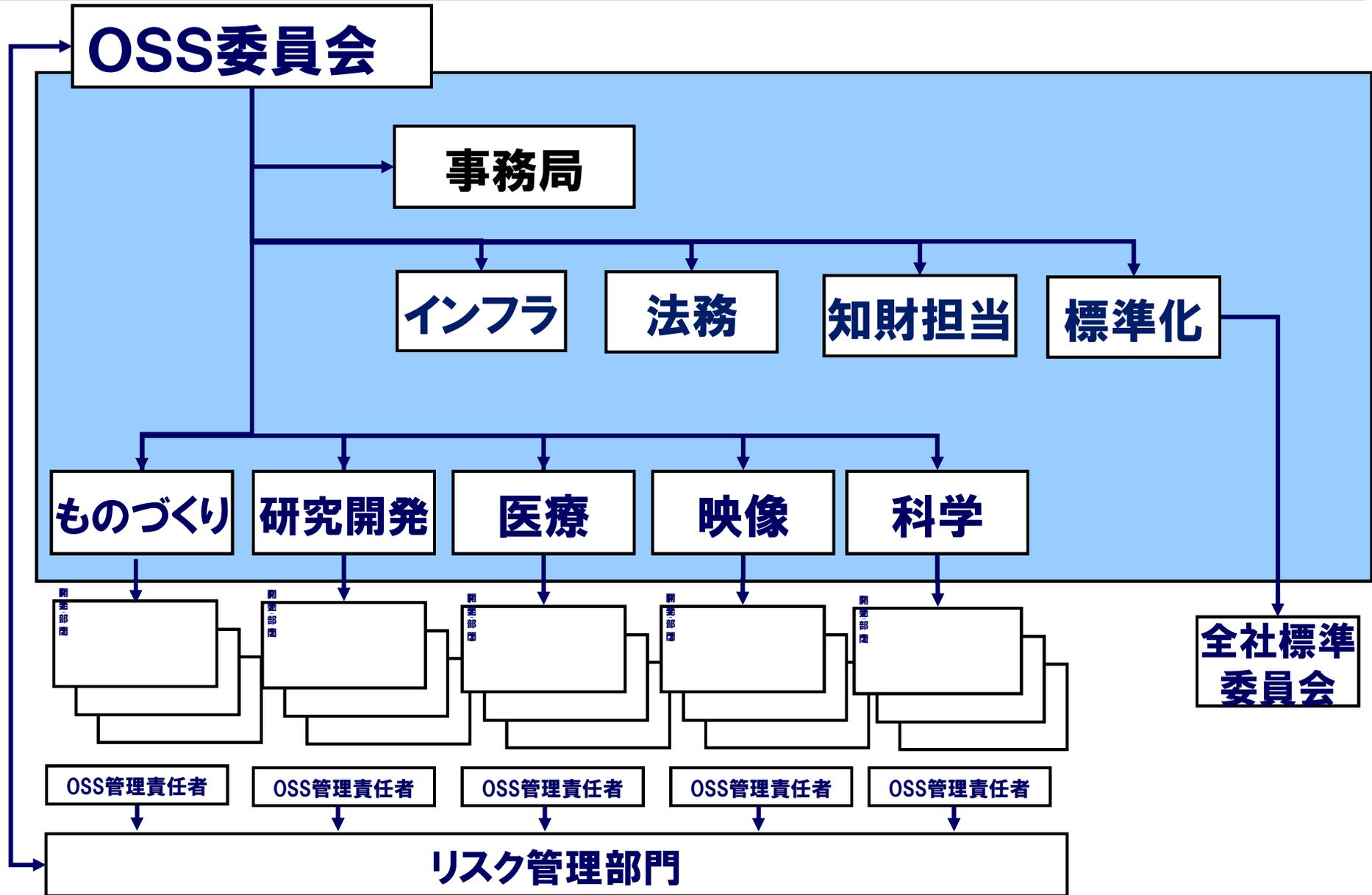
今後 コンプライアンス違反の発生を防ぐことを目的とし、  
**1. 意図的なOSS利用時の確実なライセンス対応**  
**2. 意図しないOSS混入防止**  
が徹底できる仕組みを構築する

グローバルも含めたオリンパスグループより頒布する  
ソフトウェア全てに適用する。

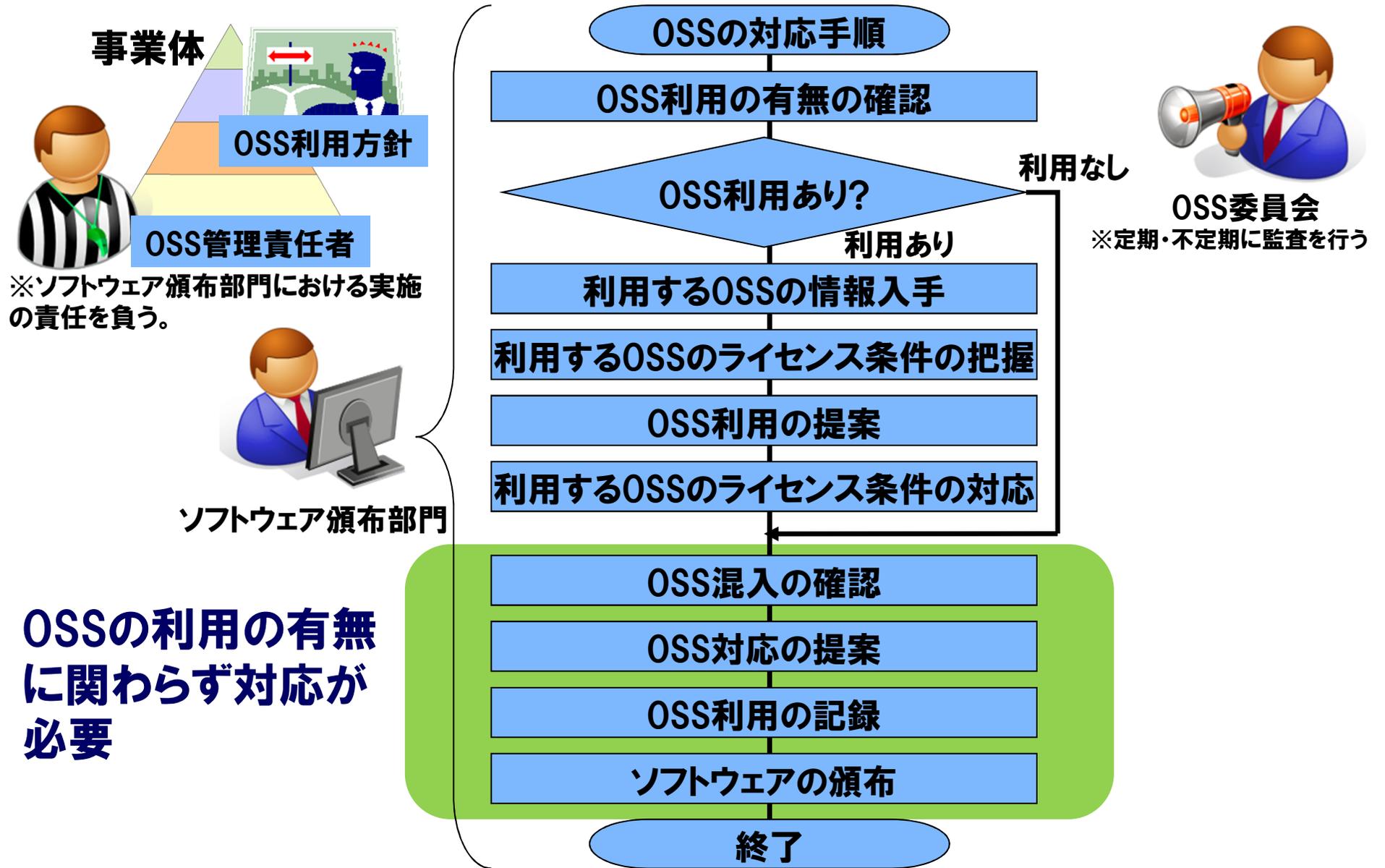


運用していくための三つの  
要素の基盤を構築

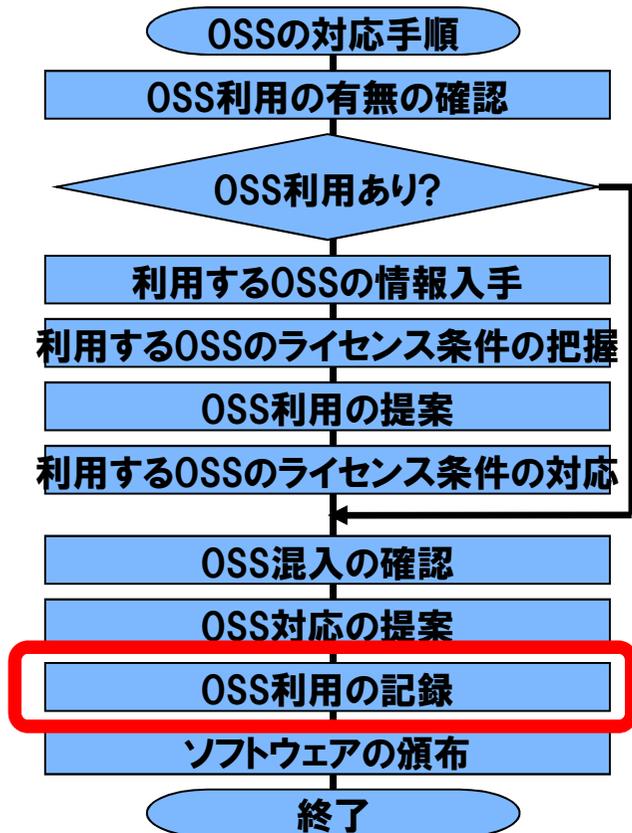
### 3. 運用の実際 - a) 体制: 全社委員会



# b) 全社標準プロセスに含まれたOSS関連プロセス



# 「OSS報告書」



OSS (オープンソースソフトウェア) 報告書			識別 No.	
	作成 / Author	審査 / Verifier	審査 / Verifier	承認 / Approver
氏名 / Name 印 / Signature			(GLクラス)	(BMクラス)
日付 / Date	/ /	/ /	/ /	/ /
作成部署	部 G			
製品名称	(和文) (英文)	コードネーム (テーマ名)		
利用する OSS 数	利用なしの場合は「0」(ゼロ)を記入 利用ありの場合はこの数値と「OSS ごとの情報」の数は一致させる			
混入確認の実施	実施済み (実施日: / / )		未実施	
混入確認の結果	混入なし	混入あり ※混入ありの場合は 頒布不可	エビデンス	
コメント				

#	OSS ごとの情報				
1	基本情報				
	名称				
	バージョン				
	開発者 (著作権者) 名				
	取得元の URL				
	ライセンス条件				
	ライセンス名称				
	ライセンスタイプ	GPL タイプ	LGPL タイプ	MPL タイプ	BSD タイプ
	利用方法				
	リンク形式	静的リンク	動的リンク	プロセス間 通信	独立した プログラム
	ソースコードの改変	あり		なし	
	ライセンス条件の具体的対応方法				
	著作権の表示方法				
	ライセンス本文の表示 方法				
	免責事項・無保証・特 許などに関する記載の 表示方法				

## c) 運用状況に合わせたツールの用意

12/16

- Protexライセンス拡張  
「国内主要事業および海外パイロット部門」から「グループ全体」へ
- OSSに関する情報を集約(”OSS Knowledge”)  
ナレッジサイトの構築(ライセンス、利用事例、Protex申請方法 等々)

The screenshot shows the OLYMPUS OSS Knowledge website. The header features the OLYMPUS logo on the left and the user name 'Nbuko Hattori' on the right. Below the header is a navigation bar with a dropdown menu set to 'このプレース' and a search box. The main content area is titled 'OSS\_Knowledge' and includes a breadcrumb trail '現在の場所: OSS\_Knowledge > OSS Knowledge'. A left sidebar contains a list of navigation items: 'OSS Knowledge', 'ライセンスを知る | Know about licenses', '学習する | Learn', '調査する | Survey', '導入事例を探す | Search Case Studies', '利用する | Exploit', '混入確認をする | Check OSS Contamination', 'OSS報告書を提出する | Submit OSS report', '用語を調べる | Glossary', 'リンク集 | Links', and 'フォーラム | Forum'. The main content area displays the title 'OSS Knowledge' and a button 'チェックアウトして編集'. Below this is a large blue box with the text: 'OSSに関する疑問解決に役立つ情報の共有を目的としています' and 'to share information to help solving questions about OSS'. At the bottom right of the page is the OLYMPUS logo.

# 各々の立場に合わせた教育の実施

## 教育体系

講演会      集合研修      e-Learning      資料配布

経営者向けOSS研修	戦略立案や方針策定、OSS利用を判断する経営者向け
OSS検出ツール研修	OSS検出ツールを使用する担当者向け
SW開発者向けOSS研修	OSS利用を提案、OSS利用状況を把握する担当者向け
法務担当者向けOSS研修	OSSを利用する案件を担当する担当者向け
OSS基礎	OSSを利用したソフトウェアを開発、頒布する担当者向け
SW開発委託者向けOSS基礎	OSSを利用した販促品の開発委託やOEMの仕入れを担当する担当者向け
ユーザー対応者向けOSS基礎	製品購入したお客様と接する営業やサポート担当者向け
パートナー向けOSS基礎	OSSを利用したソフトウェアを開発するパートナー向け

教育コンテンツは海外展開に合わせ翻訳も実施し、海外からも閲覧ができるサイト (OSS Knowledge) にて公開

- OSSを利用する製品のための特殊なプロセスがあるわけではありません。(途中で分岐はするが、プロセスはすべて同じ。)
- OSSを利用する場合には固有の作業は当然増えます。だが、OSSを利用しない場合でも(OSSのことを考慮していなかった時と比較して)作業は増えます。
- プロセスだけでなく、体制やツールも必要です。

## 最初のヒヤリ・ハットの事例にはどう対応したか。

→

## 「利用の有無の確認書」をプロセスに。

\_\_\_\_\_様

### オープンソースソフトウェアの利用の有無の確認書

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。この度貴社からの納入物（製品、部品、ユニット、ソフトウェア、またはサービスなど）に、公然利用可能なソフトウェアであって、一般的に「オープンソースソフトウェア」と呼ばれているソフトウェア（以下 OSS と呼ぶ）が利用されているか否かを教えて頂きたくご連絡申し上げました。つきましては納入物における OSS の利用の有無について、本信末尾の回答欄にご記入いただき、貴社御記名捺印の上、弊社宛にご送付賜りたくお願い申し上げます。また、納入物に OSS が利用されている場合には、さらに以下の情報を納入物ごとに提供していただけますようお願い申し上げます。

記

- 1) OSS を含んでいる納入物の名称
- 2) 含まれている全ての OSS の名称のリスト
- 3) 含まれている全ての OSS のライセンス条文、または利用条件
- 4) 著作権に関する告知文章（必要な OSS に対して）
- 5) ソースコード、オブジェクトコード、およびそれらに付随した情報（必要な OSS に対して）
- 6) オリンパスが当該 OSS またはその派生物を複製、翻案、改変または頒布するにあたり必要なその他の情報

以上

上記質問事項につき、以下のとおり回答いたします。

納入物の名称 : \_\_\_\_\_

納入物における OSS 利用の有無 :  ( 有 ・ 無 )

**OLYMPUS**

---